

# いしづえ

甲斐市立双葉東小学校 平成21年2月28日号(両面印刷版)

平成21年2月9日(月)午後7時30分より、双葉東小学校会議室において以下の委員により第2回学校関係者評価委員会が開かれました。昨年末の忙しい時期にも関わらずアンケートにご協力をいただいた保護者の皆様ありがとうございました。皆様からいただいた貴重な意見やデータを参考にしながら、学校関係者評価委員会の皆様方には真摯な討議をしていただきました。今回の意見を踏まえ、職員一同力をあわせ年度末に向けてしっかり取り組んでいきたいと思っております。また、次年度への課題として継続していきます。

平成20年度学校関係者評価委員会メンバー

学校評議員	大澤健次郎	石塚邦夫	古澤みどり
	前田英二	長谷部 集	中村めぐみ
PTA 関係	会長 乙黒健	副会長 堀内美幸	
学校関係	校長 中 千博	教頭 太田充	教務主任 白倉三正

## 1 全体評価

今回も自己評価結果は総じて、高い水準にあった。項目Ⅰ「学校教育目標・学校経営について」、項目Ⅱ「学校運営について」、項目Ⅲ「学習指導について」、項目Ⅳ「生徒指導について」、項目Ⅴ「地域との連携について」、項目Ⅵ「学校の特色に関して」の全てにおいて高い数値結果であった。自己評価項目全49質問の全てが肯定的評価(A・B)であった。否定的評価(C)も、ほとんどが1~3名(3.7~11.1パーセント)であった。否定的評価(D)は3問のみで、各1名(3.7パーセント)であった。前期同様後期も高水準にある。

### Ⅰ 学校教育目標に関して・学校経営について

自己評価の7質問の全てが、肯定的評価(A・B)であった。その肯定的評価(A・B)の中でも、4質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号4・6・7の3質問はA評価よりB評価の方が若干高い評価結果であった。また、質問番号5・6・7には1~2名(3.7~7.4パーセント)のC評価があった。質問番号5には1名(3.7パーセント)のD評価があった。この「学校教育目標に関して・学校経営について」の項は、高い評価結果といえる。

### 達成状況 改善策

- ・ 教職員個人のPDCAサイクルの実践や取り組みにより、学校の教育活動全体でのPDCAサイクルの実践や取り組みの結果の方が高かった。個人と学校のPDCAサイクルの効果的な関連と連携が必要である。今後もマネジメント研修の機会をもつことが肝要である。
- ・ 多忙化する学校現場の現状の中、組織的に計画的に厚生事業や相談活動を取り入れ、教職員一人ひとりが楽しく、生き甲斐をもって活躍できる職場作りに努めることが大切であり、今後も取り組まなければならない。

## II 学校運営について

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも7質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号2・8・9の3質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号2は1名（3.7パーセント）のC評価があった。質問番号5・8には各1名（3.7パーセント）のD評価があった。この「学校運営について」の項も、高い評価結果といえる

況

- 改善策
- ・ 教職員一人ひとりがリスクマネジメント・クライシスマネジメントへの理解と実践力を高める必要がある。より実効性のある避難訓練の実施や危機管理マニュアルの作成にも努める。
  - ・ 創意工夫した教育活動が進められるよう、今後もさらに職員会議や校内研究会の充実を図るとともに、個々の教職員の適性が生かされた調和のとれた校務分掌の構築と、全校体制を基調とした協力協働体制のより強化を図る学校経営及び運営に努めなければならない。

## III 学習指導について

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中で、4質問がB評価よりA評価の方が高かった。しかし質問番号2・4・5・6・7の5質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号1・2・4・5・7には各1名（3.7パーセント）のC評価があった。D評価はなかった。

況 この「学習指導について」の項も、高い評価結果といえるが、数値は低いとはいえ、5質問に否定的評価（C）があったことは、今後の課題である。

- 改善策
- ・ わかる授業・楽しい授業の創造に向け、教材研究・実践研究を通じて、常に授業の充実を図る必要がある。また、教材のもつ本質や真理に迫る質の高い授業作りにも努めなければならない。
  - ・ 児童の実態を的確に把握し、学校教育活動全体を通して、児童に寄り添う姿勢を大切にしながら、児童理解・児童アセスメントに努めることが大事である。
  - ・ 児童一人ひとりの居場所を確保しながら、自由に質問や発言できる居心地のよい学級作りに努めることが、これからますます求められる。

## IV 生徒指導について

達成状況 自己評価の7質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも5質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号3・4はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号3・4・5には各1～2名（3.7～7.4パーセント）のC評価があった。D評価はなかった。

「生徒指導について」の項も、高い評価結果といえる。

- 改善策
- ・ 児童の発達段階にあった将来設計能力、人間関係形成能力等の生き方教育（キャリア・進路指導）についても、これからも積極的に取り組む必要がある。
  - ・ 学校教育全体を通じて、社会をよりよく生きていくための規範意識の定着に努める。
  - ・ 報告・連絡・相談・確認体制の徹底を図るとともに、問題や課題に対し迅速に全教職員で共有し、共通理解にもとづいた対処・対応に努めなければならない。

## V 地域との連携について

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも5質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号1・2・4・7の4質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号2には1名（3.7パーセント）のC評価があった。D評価はなかった。「地域と連携について」のこの項目も、高い評価結果といえる。

- 改善策**
- ・ 各種たよりやホームページ等で学校評議員や学校関係者評価委員会を紹介したり、学校評価制度についてもより周知されるよう努めていかなければならない。
  - ・ 学校への要望等に対し、常にアンテナを高くし、積極的に受け止める姿勢を今後も大切にしていかなければならない。学校の情報も各種たよりやホームページ等を積極的に活用し、リアルタイムで発信していくことが大切である。

## VI 学校の特色に関して

**達成状況** 自己評価の8質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高い結果であった。しかし質問番号5・6の2質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号5・6に1～2名（3.7～7.4パーセント）のC評価あったが、D評価はなかった。

数値のみで推しはかることはできないが、全5項目の中で「学校の特色に関して」の項は、特に高い評価結果といえる。

### 3 まとめ 〈成果と課題〉

学校が自らの教育活動や学校運営に対し、組織的・継続的な改善を図ることを目的に、平成18年度から実施された学校評価システムの目的や意義も広く理解され、順調に進んでいる。学校評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民から理解と協力を得て、その連携・協力により、一步ずつ着実に地域に開かれた、信頼ある学校作りが進められている。この学校評価システムを通して、あらためて学校教育目標の具現化に向けて学校運営が着実に進められていることや、今までの取り組みの成果を生かした特色ある学校作りが行われていること等が、再認識・再確認できた。また課題点や今後取り組まなければならない点等も多数見えてきた。この自己評価結果を真摯に受け止め、よりよい、より充実した学校作りのための評価システムであることを再確認し、これからも取り組んでいきたい。

### ※第2回学校関係者評価委員会で出された質問や意見

- ①学校のホームページ（HP）が充実してきている。これからも楽しみにしている。
- ②児童アンケートの設問内容の工夫が望まれる。低学年の子どもたちの発達段階を考慮した設問を考えて欲しい。わかりやすく答えやすい内容がのぞまれる。また、C、D評価した子どもには理由を問いたい。緊急の場合もある。
- ③評価すればする程、継続すればする程、厳しい評価になる。低学年から高学年になるに従ってA評価の割合が減少していることが物語っている。
- ④家庭教育のあり方、しつけの問題等、学び合う場がほしい。
- ⑤様々な問題、課題を抱えた子どもたちに先生方のあたたかいまなざしをのぞみたい。笑顔があふれる学校にしてほしい。
- ⑥子どもの成長を感じさせる授業実践を続けてほしい。
- ⑦あいさつ、声かけ運動が、当たり前のようにできるようになってきました。清掃、給食活動などの様子も知らせてほしい。

などでした。まだその他にも有益なお話がありました。ありがとうございました。

### ※Q&A

- ・ 学校関係者評価委員とは？

校長の推薦により教育委員会が委嘱する。学校教育に対して深い識見と理解をもたれた方をお願いをします。校長の求めに応じて意見や感想などいただきます。任期は、不定期ですが、学校の状況をよく理解していただく上でも複数年がのぞまれます。会は通常年2回～3回程度ですが、学校行事（音楽発



順調に進む校庭改修

表会、運動会、東の祭り等)への参加等をお願いしています。

・PDCAサイクルとは？

学校の教育活動は、全てこのPDCAサイクルで運営されている。P(計画)D(実践)C(反省)A(改善策、行動)などといわれています。先生が、子どもたちに指導するスタイルの一番大切にしている部分です。学習や生活など学校生活の様々な場面で計画→実践→反省→改善の流れになっているかなと見ていただくと理解できます。

## 六年生に贈る会 2月26日(木)がありました。

1～5年生による心温まる出し物に6年生も6年生の保護者の皆様方も楽しく心に残るひと時を過ごすことができました1年間、学校の縁の下の力持ちとして頑張ってくれたことへの贈り物です。是非、中学校でも活躍してほしいと思います。



見事な演奏を披露してくれた6年生  
ありがとう 6年生



ズームイン！5年生 学習の成果がだせた  
東小七不思議



6年生が4年生の時の出来事を楽しく発表し  
てくれた4年生



かさじぞう劇を工夫した3年生の発表  
登場人物になりきっていました



呼びかけと歌、とびいりで楽しめ  
た2年生



つけたし言葉と歌の発表で楽しませ  
てくれた1年生